



THE IMPORTANCE OF KEEPING CONTROL

マイクロソフトCEO

サティア・ナデラ

「AI時代に人間が主導権を握り続けるためには」

マイクロソフトCEOのサティア・ナデラ氏は、AIに質問を投げかけるたびにデータや知識がモデル側へ流出していく危険性を「逆情報パラドックス」と名付け、自社を守るための技術的・組織的対策の重要性を語る。AIは創造性を高め、人間の意図を実現へと導いてくれる一方で、AIに支配されるのではなく、「人間が主導権を握り続けること」が、この時代を特徴づける根本的な課題だという。CNNが同氏に詳しく話を聞いた。



インタビュアー

ファリード・ザカリア

インド出身のジャーナリスト、国際問題評論家。イエール大学卒業後、ハーバード大学で博士号を取得。国際政治経済ジャーナル「フォーリン・アフェアーズ」編集長、ニュース週刊誌「ニューズウィーク」の国際版編集長を経て、2008年6月よりCNNで「Fareed Zakaria GPS」の番組ホストを務める。1964年、ムンバイ生まれ。



ゲスト

サティア・ナデラ

1967年、インド、ハイデラバード生まれ。マニパル工科大学で電気工学を学んだ後、ウィスコンシン大学ミルウォーキー校で修士号、シカゴ大学でMBAを取得した。1992年マイクロソフトに入社。2014年に同社の最高経営責任者（CEO）に就任し、ビル・ゲイツ、スティーブ・バルマーに次ぎ、3代目CEOとなる。



Listening Quiz

58 「逆情報パラドックス」をどう防ぐか

Microsoft CEO Satya Nadella made headlines earlier this month when he warned that companies using AI pay for intelligence twice—once with their actual payments to the AI firms, and again with something even more precious: their data and their unique knowledge. In other words, asking AI questions doesn't just result in answers for us; it tells AI what we're thinking. This creates what Nadella has penned the Reverse Information Paradox, where AI models and their providers are the ones gaining more knowledge and overwhelmingly reaping the benefits.*

* * *

Fareed Zakaria This is something you've been quite vocal about—the idea that every time you use an AI model, you're giving them your data, you're giving them your thought process, and they're essentially stealing that and making their models better. Is there a way in which you can take advantage of AI and still control your data and your reasoning?

Satya Nadella At the firm level, the decision should be, “OK, I am a firm that creates knowledge, and I need that knowledge to stay inside the firm. I not only have human capital but, now, I'll have increasing levels of token capital.”* The only way to preserve that is ensuring that the Reverse Information Paradox doesn't happen—which is every time you use the model, all of the metadata* around it is retained by you.

make headlines:

大ニュースになる、メディアで大々的に取り上げられる

intelligence:

知能、知性、知的能力

result in:

～をもたらす、(結果として)～につながる

pen A B:

▶標準的な表現ではないが、ここでは「文書でAをBと称する」という意味で使われている。

overwhelmingly:

圧倒的に

reap:

(恩恵など)を得る、享受する

benefit:

利益、利得、恩恵

vocal:

遠慮なく意見を述べる、声高に主張する

essentially:

基本的に、事実上

steal:

～を盗む、奪う、こっそり手に入れる

take advantage of:

～をうまく利用する、活用する

reasoning:

推論、思考過程

human capital:

人的資本

token capital:

トークン資本 ▶p.85参照。

preserve:

～を維持する、保護する、失わないようにする

ensure that:

～ということを確実にする、必ず～となるようにする

retain:

～を保持する、留め置く

マイクロソフトのCEO、サティア・ナデラ氏は、今月（2026年7月）話題をさらいました、AIを利用する企業はその知能を利用するため二重に代価を支払っていると警告したときに。つまり、1つはAI企業への実際の支払いによって、そして2つはそれ以上に貴重なもの、すなわち自社のデータと独自の知識（を譲り渡すこと）によって、ということです。言い換えると、AIへの質問は私たちに回答をもたらすだけではなく、AIにわれわれが考えていることを教えてしまうことにもなります。これが生み出すのが、ナデラ氏の言う「逆情報パラドックス」です。そこではAIモデルとその提供者の側の方が、より多くの知識を得て圧倒的に恩恵を享受することになります。

* * *

ファリード・ザカリヤ これはあなたがかなり声を大にして言い続けていることですね——AIモデルを使うたびにAI提供者側に自分のデータを渡してしまっている、自分の思考過程を渡してしまっている、そして、提供者側は事実上それを無断借用して自分たちのモデルを向上させている、と。AIを活用しながら、なお自分のデータと思考過程（の機密性）をコントロールする方法はあるのでしょうか。

サティア・ナデラ 企業レベルでは、その判断はこうなるべきでしょう、「よし、こちらは知識を創出する企業で、その知識を自社内に留めておく必要がある。こちらは人的資本だけではなく、これからますます多くのトークン資本も持つことになる」と。それを維持する唯一の方法は、絶対に逆情報パラドックスが起きないようにする——つまり、AIモデルを使うたびに、関連する全てのメタデータが自分のもとに留め置かれるようにする、ということです。



インタビュアーは番組のホストを務めるファリード・ザカリヤ

■ the Reverse Information Paradox

ナデラ氏が提唱する、新しいタイプの知的財産リスクのこと。1962年に経済学者ケネス・アローが示した「情報パラドックス」を基にしている。これは、情報を売ろうとする側が、買い手に価値を理解してもらうために中身の一部を明かさざるを得ず、その結果、売るはずだった情報を事実上無料で渡してしまいかねないという構造的なジレンマを指す。AIはこの構図を反転させるとされ、従来「売り手」が損失リスクを負っていたのに対し、AI時代には「買い手（利用者）」が、AIに問い合わせたりデータを投入したりする行為そのものによって、自社の情報を外部に流出させるリスクを背負うことになるというもの。

■ I not only have...token capital.

ここで言われている、人的資本とトークン資本の定義は、ナデラ氏が2026年6月にXへ投稿した“A frontier without an ecosystem is not stable”に基づく。人的資本は、社員に内在する知識、判断力、人間関係、創意工夫、パターン認識の総体を指す。トークン資本は同氏が作った用語で、企業が構築・保有するAIに関する能力（モデル、推論基盤、データ活用の仕組み、運用ノウハウを含む）を指す。重要なのは、人的資本とトークン資本が相互に循環し、学習のループを形成するよう設計することだという。

■ metadata

メタデータは通常、データの作成日時やファイル形式といったデータについての補助的情報を指すが、ここではAI使用時に発生・付随する広義の情報一式を指していると思われる。